

1. 圏域の概要

(1) 水産業の概要

① 圏域内に位置する市町村および漁業協同組合の概要

当圏域は、平成18年に常呂町、端野町、留辺蘂町、北見市の1市3町が合併した北見市及び佐呂間町の1市1町からなり、農業や漁業を中心とした一次産業が盛んである。

圏域内には、旧常呂町内での活動を主とする常呂漁業協同組合と、佐呂間町での活動を主とする佐呂間漁業協同組合及びサロマ湖内の漁業資源、漁業環境を管理するサロマ湖養殖漁業協同組合があり、第1種漁港4港（常呂河口漁港・栄浦漁港・浜佐呂間漁港・富富士漁港）、第2種漁港1港（常呂漁港）、第4種漁港1港（サロマ湖漁港）の計6漁港により漁業活動が展開されている。

地区ではホタテガイ等の主要な漁獲物の水揚げが堅調であり、漁協経営も好調であるため合併の動きは無い。

② 主要漁業種類、主要魚種の生産量、資源量の状況

当圏域ではオホーツク海やサロマ湖を漁場としたほたてがい漁業及びさけ定置漁業が盛んであり、これら漁業種類で圏域全体の水揚量の97%を誇る。

主要魚種はホタテガイとサケであり、令和元年の港勢調査によるとホタテガイ（稚貝養殖を含む）は漁獲量が69,906トン、金額が114億円と国内屈指の水揚げをほこり、サケは漁獲量が2,748トン、金額が15億円となっている。

ホタテガイは地まき養殖により資源造成がなされ、平成26-27年に低気圧による漁場被害を受けたものの、漁場の回復に伴い現在では漁獲量が増加傾向にある。また、サケ・マスについては人工種苗放流による資源造成が行われ、漁獲水準の維持に努めている。

③ 水産物の流通・加工の状況

圏域内で水揚げされた漁獲物は、常呂漁港の産地市場や、栄浦漁港、浜佐呂間漁港、富富士漁港の荷さばき所に集約され、特にホタテガイについては地区内の漁業協同組合の自営加工場で玉冷や干貝柱製品等に加工されるほか、圏域内外の民間水産加工場や仲買人等を通じ、国内外へ流通している。

④ 養殖業の状況

ホタテガイについてはサロマ湖内で天然幼生を採取して中間育成した稚貝をオホーツク海の前浜に放流し、その3年後に成貝を漁獲する地まき養殖の生産体制が確立

されている。

サケ・マスについては毎年、秋に回帰した親魚で人工授精を行い、翌春に放流し、その後、回帰した成魚を漁獲する資源造成の体制が確立されている。

また、当圏域ではサロマ湖内においてかき養殖も営まれており、11月～翌3月にかけて出荷されている。

⑤ 漁業経営体、漁業就業者（組合員等）の状況

圏域内の漁業経営体数は212経営体、組合員は220名となっている。

近年の組合員数は横ばいであり、水揚げも堅調であることから、今後とも同様の傾向が継続することが見込まれる。

⑥ 水産業の発展のための取組

主要魚種であるホタテガイ及びサケ・マス類については、安定的な漁獲を図るため、地域漁業者により種苗生産と放流が行われている。

また、ホタテガイやサケについては、天蓋施設などの衛生管理施設を設けたハード対策と、港内における衛生管理のルール設定などソフト対策の取組によって、海外の衛生管理基準を満たす製品づくりの体制が構築されている。

⑦ 水産基盤整備に関する課題

サロマ湖漁港では、外海と繋がるサロマ湖口にアイスブームを設置し、湖内のホタテガイやカキの養殖施設を冬期間における流氷被害から防護しているところであるが、アイスブームの本体ロープ等が経年的に劣化して定期的な交換・点検が必要なことから継続的な機能保全対策が必要であるほか、施設老朽化に伴う機能保全や、航路・泊地の適正水深の確保が課題となっている。

常呂漁港では、漁船の大型化に伴い天蓋施設が不足しているほか、航路・泊地の静穏確保、漁船上架施設の作業能力の向上、荷さばき所の高度衛生管理や省力化対策、清浄海水供給施設における砂泥・シルト成分の混入対策、既存施設の老朽化に伴う機能保全、航路・泊地の適正水深の確保が課題となっている。

常呂河口漁港では航路・泊地の適正水深の確保が課題となっている。

栄浦漁港では既存施設の老朽化に伴う機能保全が課題となっている。

浜佐呂間漁港では既存施設の老朽化に伴う機能保全のほか、航路・泊地の適正水深の確保が課題となっている。

富武士漁港では漁船の大型化に伴い係留施設が不足しているほか、既存施設の老朽化に伴う機能保全が課題となっている。

⑧ 将来的な漁港機能の集約化

常呂漁業協同組合が利用する常呂漁港、栄浦漁港、浜佐呂間漁港では、荷さばき所が各漁港に分散しており、カキ類などの荷さばきが非効率であるため、集約化が必要である。

浜佐呂間漁港については、漁港近隣で、静穏確保がままならない漁港以外の前浜を

拠点とする漁船が多いため、集約化が必要である。

(2) 圏域設定の考え方

① 圏域タイプ	流通拠点型	<p>設定理由；</p> <p>当圏域で水揚げされた漁獲物は、常呂漁港の産地市場等で集荷された後、消費地や加工場へ出荷されているため。</p>
② 圏域範囲	北見市・佐呂間町	<p>設定理由；</p> <p>圏域内の水産物が集約される北見市及び佐呂間町の流通拠点漁港（常呂漁港）の集荷範囲としたため。</p>
③ 流通拠点漁港	常呂漁港	<p>設定理由；</p> <p>漁港背後に圏域内の水産物が集約される産地市場や加工場が立地するとともに、災害発生時には事業継続計画（BCP）に従い当該漁港を拠点に漁業活動が早期に再開できる態勢が構築されているため。</p> <p>・ 属地陸揚量：45,150t（R1） 属地陸揚金額：90億円（R1）</p>
④ 生産拠点漁港	<p>常呂河口漁港</p> <p>栄浦漁港・浜佐呂間漁港・富士漁港</p>	<p>設定理由；</p> <p>属地陸揚げ金額が約1億円であり、小定置漁業において水揚げや日常的な漁具のメンテナンスといった漁労活動の拠点となるなど中核的な役割を担うほか、荒天時には近隣漁船の避難場所として機能するため。</p> <p>・ 属地陸揚量：167t（R1） 属地陸揚金額：1億円（R1）</p> <p>属地陸揚げ金額が栄浦漁港で約8億円、浜佐呂間漁港では5億円、富士漁港では32億円あり、ほたてがい養殖漁業、かき養殖漁業などにおいて水揚げや日常的な漁具の</p>

	サロマ湖漁港	メンテナンスといった漁労活動の拠点となるなど中核的な役割を果たすほか、荒天時には近隣漁船の避難場所として機能するため。 ・ 属地陸揚量：29,467t (R1) 属地陸揚金額：44 億円 (R1) サロマ湖内と外海を結ぶ航路として重要な役割を果たすため。 ・ 属地陸揚量：0t (R1) 属地陸揚金額：0 億円 (R1)
⑤ 輸出拠点漁港	常呂漁港・栄浦漁港・浜佐呂間漁港・富武士漁港	設定理由； 輸出対象魚種であるホタテガイの陸揚拠点となっているため。

(令和元年)

圏域の属地陸揚量(トン)	74,784	圏域の登録漁船隻数(隻)	430
圏域の総漁港数	6	圏域内での輸出取扱量(トン)	9,600
圏域で水産物の水揚実績がある港湾数	0		

当該圏域を含む養殖生産拠点地域名	常呂・佐呂間地域
当該圏域を含む養殖生産拠点地域における主要対象魚種	ホタテガイ・カキ類
当該圏域を含む養殖生産拠点地域における魚種別生産量(収穫量)(トン)	ホタテガイ(地まき) 51,797 ホタテガイ(養殖) 18,109 カキ類 639
当該圏域を含む養殖生産拠点地域における魚種別海面養殖業産出額(百万円)	ホタテガイ(地まき) 9,417 ホタテガイ(養殖) 2,000 カキ類 125

2. 圏域における水産基盤整備の基本方針
(1) 産地の生産力強化と輸出促進による水産業の成長産業化
① 拠点漁港等の生産・流通機能の強化
・ 生産・流通機能の強化

波浪による航路・泊地の静穏度悪化や、漁船上架にかかる作業効率の改善を図るため、静穏度対策や漁船上架施設の整備を進める必要がある。

また、荷さばき作業における省力化を図るため、ICT技術の導入について検討する。

- ・輸出促進への対応

輸出先国の衛生基準等ニーズに対応した水産物を生産し、輸出を促進するため、衛生管理された高品質な水産物の流通増大と鮮度保持対策を進める必要がある。

また、常呂漁港では、危害要因を排除し、衛生管理体制をハード面から構築するため屋根付き岸壁を整備しているところであるが、今後は管理者の衛生管理意識の向上や施設の効果的運用を図るため、より一層のソフト対策を講じていく必要がある。

②養殖生産拠点の形成

サロマ湖内は、圏域内外で養殖用種苗として利用されるホタテガイ稚貝や、耳づり養殖によるホタテガイ成貝、カキ類の養殖生産基地として機能しており、これら養殖施設を流氷から守るための施設整備を行う必要がある。

また、陸上での養殖作業や、漁獲物の水揚げをより速やかに行うことができるよう、係留施設や泊地の整備を図る必要がある。

(2) 海洋環境の変化や災害リスクへの対応力強化による持続可能な漁業生産の確保

①環境変化に適応した漁場生産力の強化

海洋環境の変化等により主要魚種の漁獲水準が低下傾向にあるなどの課題が顕在化しており、持続可能な漁業生産を確保するため、漁港施設用地を活用した陸上畜養・増養殖や、漁港区域内の海面を活用した畜養・増養殖といった地元の取り組みと連携した漁港整備を推進する。

②災害リスクへの対応力強化

- ・漁業地域の安全・安心の確保

外海からサロマ湖内に流入する流氷によって養殖施設の破損被害を防ぐため、サロマ湖口に設けられた防氷堤の整備を行う必要がある。

また、自然災害に対応した防災機能対策や漁港利用者の安全確保ができるよう、航路・泊地の静穏度を高めるため外郭施設を整備するほか、漂砂に伴う航路・泊地の埋塞に対する対応強化を図る必要がある。

- ・持続可能なインフラ管理の推進

予防保全を含めた持続可能なインフラ対策を講ずるため、ドローンなどの新技術を導入した施設の機能診断を迅速かつ効率的に行うとともに、防氷堤や外郭施設、係留施設など老朽化した施設の機能保全のほか、航路・泊地の適切な水深を

確保するため浚渫を行う必要がある。

(3) 「海業」振興と多様な担い手の活躍による漁村の魅力と所得の向上

① 「海業」による漁村の活性化

- ・地域活性化の取組との連携

常呂漁港では、背後地に常呂漁業協同組合の直売所があり、観光客が新鮮な水産物を求めて来訪することから、観光資源ともなる良質な水産資源の確保に繋がる施設整備により地域の活性化を目指す。

② 地域の水産業を支える多様な人材の活躍

- ・就労環境の改善

当圏域では、漁獲物の選別作業の際に女性など多様な担い手が従事しており、衛生管理施設（天蓋施設）の副次的な効果としてこれら担い手に対する就労環境が改善されることから、当該施設の施設整備や機能保全を図る。

- ・生活環境の改善

栄浦漁港、浜佐呂間漁港、富武士漁港（富武士地区・若里地区）では、背後の漁業集落に集落排水処理施設が設けられているが、老朽化が進行していることから、当該施設の機能保全を図る必要がある。

3. 目標達成のための具体的な施策

(1) 産地の生産力強化と輸出促進による水産業の成長産業化

① 拠点漁港等の生産・流通機能の強化

地区名	主要対策	事業名	漁港・港湾名	種別	流通拠点
常呂	流通機能強化 輸出促進	水産流通	常呂	2	○

- ・流通機能強化

航路・泊地の静穏確保に向けた外郭施設の整備や、漁船上架施設の整備を行う。

- ・輸出促進

衛生管理型漁港施設として生産・流通機能の強化と輸出促進を図るため、漁船の大型化に伴い不足が生じている天蓋施設の増設や、高度な衛生管理に対応し、かつ省力化等のため ICT 技術を導入した荷さばき所の設置、清浄海水供給施設の改良等を推進する。

② 養殖生産拠点の形成

地区名	主要対策	事業名	漁港・漁場名	種別	流通拠点
サロマ湖	養殖拠点	直轄	サロマ湖	4	
常呂	養殖拠点	水産流通	常呂	2	○
浜佐呂間	養殖拠点	農山漁村	浜佐呂間	1	

- ・養殖拠点

サロマ湖漁港では、湖内から外海へのホタテガイ稚貝の放流や、地まきしたホタテガイの漁獲を行う漁船等に対する航路の確保や、湖内の養殖施設を流氷から守るための機能向上を図るため、外郭施設や航路の整備を行う。

常呂漁港では、漁船の大型化に伴い不足が生じている天蓋施設の整備を推進する。

浜佐呂間漁港では、漁港近隣で、漁港以外の前浜を拠点として養殖作業や水揚げを行わざるを得ない漁船が多いことから、当該漁港に漁港機能を集約するための岸壁等の整備など、養殖生産拠点としての漁港機能の維持・向上を図るため、係留施設や泊地を整備する。

(2) 海洋環境の変化や災害リスクへの対応力強化による持続可能な漁業生産の確保

① 環境変化に適応した漁場生産力の強化

地区名	主要対策	事業名
サロマ湖	資源管理	機能保全

・資源管理

サロマ湖においては養殖場（防氷堤）整備により、ホタテガイ稚貝の供給やホタテガイ、カキといった水産物の安定供給体制の構築を図る。

② 災害リスクへの対応力強化

地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点
サロマ湖	安全・安心	直轄	サロマ湖	4	
常呂	安全・安心	水産流通	常呂	2	○
網走	予防保全	機能保全	常呂	2	○
網走	予防保全	機能保全	常呂河口	1	
網走	予防保全	機能保全	栄浦	1	
網走	予防保全	機能保全	浜佐呂間	1	
網走管内	予防保全	直轄	サロマ湖	4	

・安全・安心

サロマ湖漁港では、航路確保のため外郭施設を整備するほか、突発的な航路埋塞に対応するため航路拡幅を行う。

常呂漁港では、外郭施設の整備により航路・泊地の静穏度の確保や漂砂に伴う航路・泊地の埋塞に対する対応強化を図る。

・予防保全

サロマ湖口に設置された防氷堤や外郭施設、係留施設など老朽化した施設の機能保全を図るほか、航路・泊地の適切な水深を確保するため浚渫を行う。

(3) 「海業」振興と多様な担い手の活躍による漁村の魅力と所得の向上

① 「海業」による漁村の活性化

地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点
② 地域の水産業を支える多様な人材の活躍					
地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点
常呂	就労環境	水産流通	常呂	2	○
栄浦	生活環境	漁村整備	栄浦	1	
浜佐呂間	生活環境	漁村整備	浜佐呂間	1	
富武士	生活環境	漁村整備	富武士	1	
若里	生活環境	漁村整備	若里	1	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 就労環境改善 衛生管理施設(天蓋施設)の副次的な効果として就労環境が改善されることから、当該施設の整備を図る。 ・ 生活環境 背後の漁業集落に集落排水処理施設が設けられているが、施設の老朽化が進行していることから、当該施設の機能保全を行う。 					

<p>4. 環境への配慮事項</p> <p>漁港整備にあたっては、懸濁物の流出防止やサケ稚魚の降海時期に配慮して施工するものとする。</p> <p>また、環境負荷の削減を目指し、再生可能エネルギーの導入や、施工時におけるリサイクル材の利用について検討する。</p>
--

5. 水産物流通圏域図
別添のとおり

北海道オホーツク総合振興局水産物流通圏域図

網走西部第2圏域
流通拠点(一般)型
 流通拠点: 雄武漁港(2)
 圏域総陸揚量: 23,381 t
 圏域総陸揚金額: 53 億円
 漁港4港、港湾0港
 <機能集約>特になし
 <養殖生産>
 圏域養殖総生産量: 18,724 t
 圏域海面養殖業総産出額: 33 億円
 主要養殖魚種: ホタテガイ(稚貝・成貝)

網走西部第1圏域
流通拠点(一般)型
 流通拠点: 沙留漁港(2)
 圏域総陸揚量: 20,096 t
 圏域総陸揚金額: 36 億円
 漁港2港、港湾0港
 <機能集約>特になし
 <養殖生産>
 圏域養殖総生産量: 16,443 t
 圏域海面養殖業総産出額: 23 億円
 主要養殖魚種: ホタテガイ(稚貝・成貝)

網走中部第2圏域
流通拠点(一般)型
 流通拠点: 湧別漁港(2)
 圏域総陸揚量: 40,383 t
 圏域総陸揚金額: 62 億円
 漁港4港、港湾0港
 <機能集約>特になし
 <養殖生産>
 圏域養殖総生産量: 37,306 t
 圏域海面養殖業総産出額: 52 億円
 主要養殖魚種: ホタテガイ(稚貝・成貝)、カキ

網走中部第1圏域
流通拠点(一般)型
 流通拠点: 常呂漁港(2)
 圏域総陸揚量: 75,384 t
 圏域総陸揚金額: 135 億円
 漁港6港、港湾0港
 <機能集約>荷さばき所、岸壁
 <養殖生産>
 圏域養殖総生産量: 70,546 t
 圏域海面養殖業総産出額: 115 億円
 主要養殖魚種: ホタテガイ(稚貝・成貝)、カキ

網走東部第1圏域
流通拠点(一般)型
 流通拠点: 斜里漁港(2)、ウトロ漁港(4)
 圏域総陸揚量: 11,271 t
 圏域総陸揚金額: 56 億円
 漁港3港、港湾0港
 <機能集約>特になし

網走東部第2圏域
流通拠点(一般)型
 流通拠点: 能取漁港(4)、網走港
 圏域総陸揚量: 59,702 t
 圏域総陸揚金額: 113 億円
 漁港3港、港湾1港
 <機能集約>特になし
 <養殖生産>
 圏域養殖総生産量: 28,212 t
 圏域海面養殖業総産出額: 58 億円
 主要養殖魚種: ホタテガイ(稚貝・成貝)

